

米雇用は回復、FRBはさらにタカ派か

ポイント① 米雇用は堅調に回復

4月1日に発表された3月の米雇用統計によれば、非農業部門就業者数は前月比で43.1万人増加と概ね市場の予想通りの結果となりました。前月と比較して就業者数の増加の伸びは鈍化していますが、失業率は前月の3.8%から3.6%とさらに低下し、米国の労働市場が堅調に回復していることを示す結果となりました。また、高水準で推移するインフレが家計を圧迫している状況下で、平均時給の上昇率が加速していることから、今後は労働参加率が増えていくと考えられます。

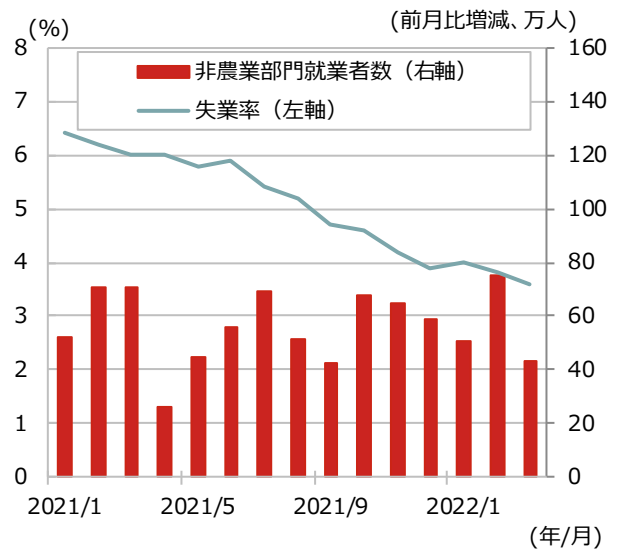
ポイント② 製造業も徐々に回復か

今回は娯楽・ホスピタリティ業界を中心に非製造業の雇用増加の割合が高くなりました。一方で製造業の雇用は増加に伸び悩んでいます。また、3月の米ISM（サプライマネジメント協会）製造業景況感指数はサプライチェーンの混乱やインフレ加速等を背景に弱い結果となりました。しかし、雇用の指数は上昇している為、労働不足の解消等をきっかけに徐々に景況感が回復していくでしょう。

ポイント③ 利上げに伴う景気への影響に注意

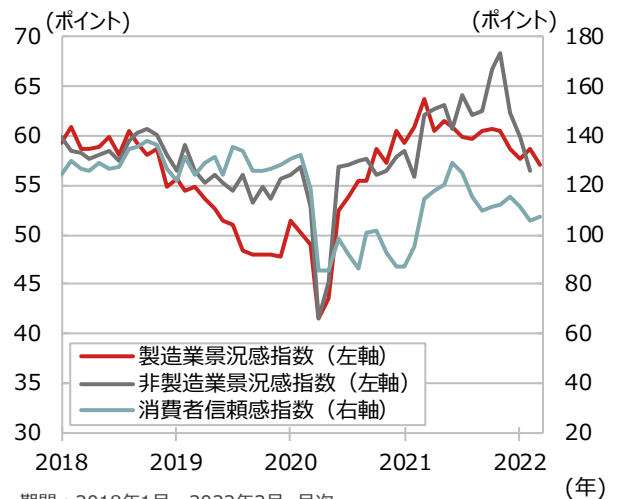
労働市場の回復が続いていることで、次回5月のFOMC（米連邦公開市場委員会）で0.5%の利上げという金融引き締め加速の可能性が強まったこと等から、4月1日の米2年債利回りは0.12%上昇しました。ウクライナ情勢の不透明感もあり、FRB（米連邦準備制度理事会）はインフレ抑制に向け、一段とタカ派化が進むと考えられます。金融引き締めの影響で住宅ローン金利が急上昇しており、中古住宅販売に影響が出始めていることから、今後の米国景気への影響には注意が必要でしょう。

米国の失業率と非農業部門就業者数の増減



期間：2021年1月～2022年3月、月次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米ISM景況感指数と コンファレンスボード消費者信頼感指数



期間：2018年1月～2022年3月、月次
(注) 米ISM非製造業景況感指数は2月まで
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要 イベント	4月5日	米ISM 非製造業景況感指数 (3月)
	4月12日	米消費者物価指数 (3月)